

御水舎

御水舎には、聖なる場所に入る前の、お祓いの儀式のための水が用意されています。御水舎に類似した設備は、日本中の神社と寺の入り口で見受けられます。1600 年代中頃、九州の大名・鍋島勝茂（西暦 1580-1657）がこの特別な泉を寄進したとされています。御水舎の屋根には、日本画の狩野派の巨匠・狩野安信（西暦 1614-1685）作の龍の見事な絵画が施してあります。時間と湿度で(龍の姿は)損ねられてしまいましたが、その絵画にはまだ本来の美しさが残っています。下の水に映る(龍の)姿は、“水鏡の龍(水鏡に反射した龍)”として知られています。

お祓いをするには、備えつけの柄杓を使ってまず左手を洗った後に、右手を洗う。その後口を注ぐ。使わなかった水は下の溝に捨てることになっています。このお祓いの順序は、寺は神社とは異なります。